



営農NEWS



イチゴのハダニ類やうどんこ病などの発生に注意しましょう

病害虫発生予報12月号(病害虫防除所)によりますと、11月下旬現在、イチゴのハダニ類の寄生葉率(本年17.0%、
 平年8.3%)、発生地点率(本年70%、平年58%)と共に平年よりやや高く、うどんこ病の発病葉率(本年4.5%、平年
 2.5%)、発病果率(本年0.4%、平年0.2%)および発病果の発生地点率(本年22%、平年10%)と、いずれも平年よ
 りやや高い状況で、12月も発生はやや多い状況で経過すると予測しています。

ハダニ類やうどんこ病などが多発生すると、防除が難しくなりますので、今後とも早期発見に努めるとともに、ミツ
 バチや天敵などへの影響を考慮して薬剤を選択し、事前の予防や発生初期の防除に努めてください。なお、これらの病
 害虫に対して特効的な各種薬剤は、抵抗性や耐性菌の出現しやすい傾向がありますので、散布後には必ず防除効果を確
 認してください。また、気門封鎖剤(粘着くん液剤など)をローテーションの中に積極的に活用し、防除効果を安定さ
 せることが重要です。

＜ハダニ類、うどんこ病など 防除のポイント＞

- 1) 発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾などを丁寧に観察してください。
- 2) 発生を確認したら、早期に薬剤防除を実施します。葉裏や下葉にもよくかかるよう、株全体に丁寧に散布します。
- 3) 既に多発生した場合には、発生葉や葉柄、果梗、果実等の病部を摘み取ってから、薬剤散布を行います。
- 4) 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、気門封鎖剤を除く同一分類(コード)の連続散布は避けてください。
- 5) ミツバチや天敵昆虫を利用の場合は、薬剤の影響等について、事前にメーカーや関係機関等から必ず指導を受け
 てください。

表1 イチゴ ハダニ類の主な防除薬剤 (令和3年12月2日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
コロマイト水和剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	6
カネマイトフロアブル	1,000~1,500倍	収穫前日まで / 1回	○	20B
スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	25A
マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	20D
サンヨール	500倍	収穫前日まで / 6回以内	○	—
粘着くん液剤(デンブン)	100倍	収穫前日まで / —	1日	—

注1) 気門封鎖剤(粘着くんなど)利用の注意点: ①薬剤により、マルチの汚れや果実薬害を生じることがあるため、各薬剤の
 特性をよく確認する。②ハダニ類等に直接かからないと効果がないため、株全体に丁寧に散布する。③ハダニ類成虫には有
 効ですが、卵には十分な効果がないため、残った卵からふ化した成虫を防除するためには、5~7日間隔で複数回散布する。

注2) 表1、2のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針(令和3年版)より抜粋しました。

○は薬液が乾けば影響なし、その他は影響日数を記載しましたが、天候、施設内の環境条件(温度、換気等)により日数
 の前後することがありますので注意が必要です。なお、—は指針に記載なしです。

注3) 表1、2の分類欄には、IRAC または FRAC コードを記載しました(コードが2つは、混合剤です)。

表2 イチゴ うどんこ病の主な防除薬剤 (令和3年12月2日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
フルピカフロアブル	2,000~3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	9
アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	7
トリフミン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで / 5回以内	○	3
パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	○	3とU6
モレスタン水和剤	3,000~4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	3日	M10
イオウフロアブル	2,000倍	— / —	1日	M2
サンヨール	500~1,000倍	収穫前日まで / 6回以内	○	—
ジーファイン水和剤	750~1,000倍	収穫前日まで / —	○	NCとM1

※その他、硫黄粒剤のくん煙処理が可能ですが、その際は専用の電気加熱式くん煙器を利用してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話: 029-291-1012 FAX: 029-291-1040